

| | | | |
|----|-----|----------|-------|
| 告示 | 番号 | 40 | 慢性心疾患 |
| | 疾病名 | 僧帽弁閉鎖不全症 | |

僧帽弁閉鎖不全症

そうぼうべんへいさふぜんしょう

概念・定義

僧帽弁および弁付属器の異常により収縮期に左室から左房への逆流が生じる先天性心疾患。僧帽弁逸脱症候群、Marfan 症候群、Ehlers-Danlos 症候群、川崎病後冠動脈瘤、左冠動脈肺動脈起始症、拡張型心筋症、乳児腱索断裂などに合併することがある。軽症例には治療は不要のことが多い。中等症には内科治療、重症例には外科治療を行う。予後は、様々である。

症状

軽症例では無症状で検診などの際、心雑音で見つかることが多い。中等症では左心不全症状、すなわち多呼吸、努力性呼吸、体重増加不良を認め、頻回の呼吸器感染及び心臓喘息を呈する。進行し高度となると浮腫・肝腫大などの右心不全症状を呈する

治療

軽症例には治療は不要である。中等症には内科治療、重症例には外科治療を行う。合併心疾患に対して外科治療する時は、僧帽弁閉鎖不全が中等症以上なら僧帽弁も一緒に治療する。

内科治療としてはアンジオテンシン変換酵素阻害薬の有効性が報告されている。心不全症状を呈している場合には利尿薬などが投与される。高度の逆流に対しては手術が行われる。先天的な構造異常に起因する場合、弁形成が困難で弁置換が選択される。

感染性心内膜炎のハイリスクであり、感染性心内膜炎予防は必要である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_62_89.html